

令和4年度 学力向上指導改善プラン

三田市立小野小学校長 水谷 裕司

学校教育目標		心豊かにたくましく 自ら学び 人とつながる 小野っ子の育成		4月		2～3月		
推進主体		管理職、学校教育改革推進委員会を中心とした学力向上委員会		学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
						年度末評価		
						今年度の成果と来年度に向けた課題等		
						評価		
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	・小規模、少人数学習のよさを活かし、言語力、表現力の育成を目指す。 ・少人数で、一人ひとりの表現の機会が保障されているが、語彙の少なさを、発表する際の技能等、表現力に課題が見られる。 ・漢字、作文など、書くことを苦手とする児童が多く、漢字の読み書き、理由や根拠を示し、筋道立てて文章を書く(話す)力の伸長を図ることが必要である。	・自ら問いを持ち、課題解決に向けての話し合いの中で、考えたことを相手や目的、意図に応じて話したり、理由や根拠を説明したりすることで主体的に学ぼうとする態度を育て、必要な能力を高める。	・全国学力・学習状況調査、単元テストの平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・フリートークを中心とした授業展開を工夫して、児童の主体的な学びによる学習を構築していく。 ・「書くこと」「話すこと」を授業の中に積極的に取り入れ、自分の考えを持ち、友達の見解と似ているところや違うところを比べながら聞く等の学習展開を取り入れる。 ・質問や付け足しをして、話し合いをするなど、言語活動の活性化によって、一人ひとりの理解を深める。	○全体では、全国平均を10.4ポイント上回り、高い正答率であった。 ○内容項目の知識及び技能、思考力、判断力、表現力等においても全国平均を上回り、とくに、「話すこと・聞くこと」領域で、12.4ポイント、「読むこと」領域では、19.1ポイント全国平均を上回って、「思考・判断・表現」の観点で理解が深まっていた。 ◆「書くこと」において、全国平均を5.6ポイント下回り、課題があった。	B
		算数・数学	・自力解決の取り組み、問題解決に向けた話し合い等、算数における表現力を伸ばしている。 ・図や表を活用して発表すること、正確に情報を読み取ったり、資料を使って説明したりすることに課題がある。 ・基礎基本の定着、計算力の向上を図るとともに、さらに「自力解決したことをもとに話し合い、考えを深める学習」に取り組み、自分の考えを説明する力を伸ばしていく。	・友達の発表に対して質問や付け足しをして、話し合いをするなど、対話を取り入れた授業展開によって、一人ひとりの理解を深め、学習意欲を高めることで、主体的に学ぼうとする態度、必要な能力を育成する。	・全国学力・学習状況調査、単元テストの平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・自分の考えをノートや黒板、iPadを使って発表したり、図や表を使って説明したりする活動を通して考えを深める。 ・題意把握、自力解決、集団解決において数図ブロックやお金(模型)など、具体物や半具体物、絵や図などを活用し、理解を深める。 ・計算について学校と家庭での学習を継続し、毎日のドリル学習や家庭学習を通して計算力の向上を目指す。	○全体では、全国平均を10.8ポイント上回り、高い正答率であった。 ○「数と計算」、「図形」、「変化と関係」データの活用」の全領域で、全国平均を上回っていた。また、「思考・判断・表現」の観点において全国平均を14.7ポイント上回り、とくに記述式の設問で25.5ポイント上回るなど、数学的思考の深まりが見られた。 ◆領域では「変化と関係」「データの活用」、観点別では「知識・技能」において、設問によって全国平均を大きく下回り、課題が見られた。	B
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	・単元テストで漢字・計算などの定着度を評価し指導に役立てる。 ・学力テストの結果を活かした個別の指導や学力差に応じた支援の工夫が必要である。 ・プリントやドリルを利用して、繰り返し練習問題等に取り組むことで一定の力をつけている。	・テストやプリントによる評価を活用し、基礎的な学習の定着を図ることで、すべての児童が学ぶ喜びを感じる授業づくりを進める。	・個別学習、補充学習等により、確実な定着を図り、単元テスト等で見取っていく。	・年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、その結果を授業改善、個別支援に活かす。 ・プリントやドリルを活用し、朝学習や授業始めに取り組むとともに、家庭と連絡を取って個別の補充学習ができるようにする。	○年度初めの学力テストで、各児童の学力の把握を行うことができた。 ○学習の基本となる漢字・計算の習熟を図るため、プリントやドリルを活用した朝学習の取り組みを継続していく。 ◆個別の補充学習は有効であった。今後も家庭と連携を取り、保護者の理解、協力を得る必要がある。	B	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	・学習展開の工夫や意欲付けにより、課題に粘り強く取り組む態度を育てている。 ・長文の読解や応用問題は最初からあきらめてしまう傾向がある。 ・児童・保護者アンケートからは、授業中の発表や発言など、表現力について肯定的評価が高まってきており、取り組みを継続していく。	・落ち着いた学習できる環境づくりとともに、児童が取り組みを通して達成感や充実感を味わうことができるような授業展開を工夫し、学習意欲を高める。	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの結果で昨年度を上回る。	・児童が主体的に学ぶ学習を展開し、学習の「めあて」と「ふりかえり」を連動させ、児童が自ら学習に向かい、自分自身の学びや成長を実感できる授業の工夫、改善を進める。 ・学級づくりを基盤として授業規律を確立し、児童一人ひとりに必要な支援を取り入れ、どの子ども学習に意欲的に参加できるように学習環境を整える。	○とくに国語において、フリートークを取り入れ、児童が主体的に学ぶ学習展開の研究に取り組むことができた。 ○算数を中心に、学習の「めあて」と「ふりかえり」を連動させ、児童が自ら学習に向かい、自分自身の学びを実感できる授業を工夫した。 ○さらに取り組みを進め、児童一人ひとりが主体的、意欲的に取り組める授業展開を工夫していく。	A	
学力向上に生活に習慣る等	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	・質問紙等の分析を行い、安定した学校生活と家庭生活習慣の相関関係を把握して、好循環を生むよう取り組んでいる。 ・朝食、起床時刻、睡眠時間、家庭学習といった生活習慣の状況を分析し、その定着を進めていく。 ・テレビを見る時間、ゲームをする時間、就寝時刻など、家庭での過ごし方も含めた生活の改善、習慣化を図る。	・より良い基本的な生活習慣の定着に努め、「早寝、早起き、朝ごはん」や家庭学習の習慣など、家庭での過ごし方も含めた生活の改善を進める。	・基本的な生活習慣の定着の重要性を保護者に発信し、家庭と協力して、学習習慣の定着を図り、全国学力・学習状況調査の質問紙による評価の向上を目指す。	・主体的な学び、課題解決学習、話し合いや協働する活動を通して考えを深め、自ら学ぼうとする態度を培うことで、学習習慣の定着と充実を目指した継続した指導を行う。 ・学校図書と連携して図書室の利用を活性化し、隙間時間を利用した読書タイムの設定、国語科と連携した音読カードによる家庭学習の習慣化等、読むことの基礎となる力の向上を図る。	○「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。 ○「生活習慣・学習習慣」では、「朝食を毎日食べていますか」の質問で、肯定的な回答率が100%であった。 ◆「読書は好きですか」の質問で、肯定的な回答が全国平均を30ポイント以上下回り、比較的低くなった。図書室利用の活性化、隙間読書の設定、音読カードによる家庭学習の習慣化等を継続していく。	B	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	・児童・保護者アンケートより、高学年の就寝時刻が遅くなっていること、読書習慣がない児童がいること等の課題が見られる。 ・家庭学習の取り組みについて、各家庭の差があり、課題である。 ・「家庭学習の手引き」の活用を呼び掛けている。	・家庭学習の充実、読書習慣作り等に取り組んでいけるよう家庭と連携していく。	・家庭学習の課題について、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」等で具体例を示しながら、家庭学習、読書習慣の定着を図り、学校評価アンケートによる評価の向上を目指す。	・毎日の音読カードやドリル学習を活用した取り組みなど、各家庭と連携して、さらに家庭学習の習慣化を進める。 ・学校により、保健だより、学年通信、家庭訪問、個人懇談などでの情報発信を継続し、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の活用を呼びかけていく。	○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で「1時間以上」の回答が全国平均を28.6ポイント上回った。 ◆「学習に対する興味・関心」が低かった。とくに「勉強は好きですか」を問う設問では、国語、算数、理科で全国平均を下回り、肯定的な回答が42.9%であった。 ◆家庭学習の習慣化を進めるためにも、本校の研究と連動して児童の学習意欲を高める取り組みを進めていく必要がある。	B	
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	・主体的に学習に取り組む、自分の考えを表現できる子の育成」をテーマとし、国語科を中心に研究を進めている。 ・算数科のガイド学習について、発達段階に応じた支援の具体などを明確にし、さらに定着を図っていく。	・国語科でフリートークによる学習を展開し、児童が主体的に学習に取り組む学習の研究を深め、算数科で、児童の主体的な学びにつながるガイド学習の研究を進める。	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの結果を取り入れ、研究目標の成果を数値の向上で見取る。	・授業公開、授業研究に取り組む、研究テーマに沿って、子どもたちに付けたい力や授業のポイントを交流し、共有することで授業改善を進める。 ・一人一授業の授業公開に取り組む、事前研、事後研を通して授業の改善、支援の方法などの共有化を図る。	○文章を読んで話し合い、考えを深めるためのフリートークを中心とした展開を取り入れるなど、授業改善に取り組んでいる成果が表れてきている。 ◆さらに、自分の考えを分かりやすく伝える、聞いたことを自分の考えとしてまとめる等の力を高めるため、授業公開、事前事後の研究を通して授業の改善、支援の方法などの共有化を図っていく。	B	
	校内研修の状況	・本校の特色を生かし、小規模、複式学級の課題解決につながるよう、ねらいを明確にして各研修を設定している。 ・学校評価及びアンケートの分析結果から次への取り組みを検討、設定し、実行していく。	・学力向上に向けての研修と生活指導、特別支援等についての研修を効果的に組み合わせる研修を行う。	・年間の研修の回数、具体的な内容を設定し、PDCAサイクルを全職員で共有して、学校評価等で、取り組みの検証、検討を行う。	・フリートークを取り入れた学習、ガイド学習、児童理解等について研修を行い、職員の共通理解を進める。 ・研修の場、回数の設定に限られる中で、今日的課題に対応すべく、必要な研修を工夫して行っていく必要がある。	○国語のフリートークを取り入れた学習、算数のガイド学習、人権学習、生活指導に関する児童理解等についての研修を計画的に行うことができた。 ○国語科以外の教科についても、フリートークを意識した授業について研究を進めるとともに、小規模、複式学級の課題解決を明確にした研修を行っている。	A	
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	・保護者や地域の本校に対する支援、協力体制ができており、さらに通学路の安全、挨拶運動、家庭学習の習慣作り等の取り組みを進めている。 ・三田市の「学校のあり方協議会」の方針等もふまえながら、学校と地域の協働体制をさらに構築していく。	・「開かれた学校づくり」を推進し、保護者、地域の学校教育への関心を高め、連携を深める。	・保護者参観、地域参加の学校行事等について、学校だより、学級通信、学校メール等で積極的に学校から情報を発信し、保護者アンケートで内容の評価、検討を行う。	・保護者、地域による参観、学校行事への参加、年間行事に位置付けた設定、各教科や総合的な学習の時間における地域人材の活用等を積極的に進める。 ・学校地域運営協議会を中心として学校関係者(区長、地域の関係者・組織等)と考えを共有し、連携した取り組みを進める。	○コロナ禍において制限はあったが、保護者、地域による参観、学校行事への参加をできる限り、年間行事に位置づけて設定、実施した。 ◆今後は、各教科や総合的な学習の時間における地域人材の活用等についても積極的に進めていきたい。	B	
	小・中における教科連携等の状況	・授業参観や連絡会を行い、中学校区において子どもたちの実態、課題、身につけさせたい力等の共通理解を図っている。 ・連携担当者や長期休業中の小中合同研修の実施等を継続し、連携を推進していく。	・これまでの四校交流の取り組みを継続し、共通した学習習慣、学習規律の策定等に向けた小中学校間の連携を深める。	・交流会、連絡会、担当者会等を定期的に関わり、回数や内容についての検証、検討を行う。	・各校との交流、合同での行事開催を通して、職員相互で児童生徒理解、教育課題の共有を図る。 ・中学校と校下の小学校4校で相互の授業参観、合同研修会を通じて情報を交流し、小中連携の内容をより深める。	○連携担当を中心に中学校と相互に授業参観を行い、子どもたちの実態・課題・身につけさせたい力の把握や、「みんなで育てよう」キャリアパスポートの活用等について共通理解を図ることができた。 ◆校区の目指す子ども像を「将来の夢や目標を持ち、挑戦する子ども」とし、来年度も合同研修会を通じて情報を交流し、長期休業中の小中合同研修の実施を継続して、小中連携を推進していく。	B	